

県立博物館見学シート

1 和歌山県立博物館について

①県立博物館の仕事（どんな仕事をしているの？）

和歌山県ゆかりの文化財を、

- (1)集める（買う・もらう・あずかる）
- (2)守る（虫やカビがつかないように、温度や湿度^{しつど}を調整、光に注意）
- (3)調べる（いつごろ・だれが・どこで・材料・大きさ・何のために）
- (4)展示する（常設展^{じょうせつてん}・特別展^{とくべつてん}・企画展^{きかくてん}）
- (5)教え広める（講演会^{こうえんかい}・ミュージアムトーク・職場体験学習^{しょくばたいけんがくしゅう}など）

②館内見学（ふだん入れない場所に、ご案内します）

(1)空調機械室^{くうちょうきかいしつ}

温度・湿度を調節し、それぞれの部屋に空気を送りこむ機械があります。

(2)展示準備室^{てんじじゆんびしつ}

展示のためにつかう道具・台などがおかれています。準備作業もします。

(3)くん蒸室^{じようしつ}

外から持ち込まれた文化財に付いている虫やカビを毒ガスで殺します。

(4)写場^{しゃじょう}（スタジオ）

文化財の写真を撮る場所です。わずかな時間、強い光を当てます(ストロボ)。

(5)収蔵庫^{しゅうぞうこ}

文化財を大切に守るための、特別な倉庫です。

温度は20～22℃、湿度は60%が基本です。

(6)搬入室^{はんにゅうしつ}・荷解室^{にときしつ}

文化財を運び入れる場所です。車の向きを変えるターンテーブルがあります。

③「さわれるレプリカ」

- (1) エントランス・ホールと常設展示室で展示しています。

ほかにもあります（和歌祭^{わかつり}の仮面^{かめん}など）

- (2) 目の不自由な人のために「視覚障害者^{しかくしょうがいしゃ}」と「晴眼者^{せいがんしゃ}」

「さわって鑑賞^{かんしょう}する」、一般の人も「さわりたい」と感じる

和歌山盲学校の先生に協力してもらい、点字^{もうがっこう}・点図^{てんじ}を作りました。

- (3) 文化財の盗難^{ぶんかざい}から守るために

文化財の盗難が発生（売ってお金もうけをするため）

博物館であずかった文化財の「お身代わり^{みが}」を作ります。

2 常設展「きのくにの歩み－人々の生活と文化」

《常設展について》

常設展とは、特別展や企画展とはちがって、ほぼ1年中おこなっている展示のことをいいます。県立博物館の常設展は、きのくに－和歌山県の3万年におよぶ歴史を紹介する展示です。

和歌山県内で人々がくらしはじめたのは、今からおよそ3万年前の旧石器時代の終わりごろのことでした。山が多く、平地が少ないこの地域では、農業だけでなく、林業や漁業も、とても大切な産業でした。しかし、自然に恵まれたきのくには、明治～大正時代ごろまでは、全国の中でもとても豊かな地域だったようです。また、海を通じて、他の地域と人や文化の動きもありました。中世の時代には、京都の貴族や神社・寺院などの荘園が多く開かれ、近世には紀伊徳川家の領地となったのは、全国の中でも重要な場所と考えられていたためです。

きのくに－和歌山県には、紀三井寺・粉河寺・道成寺など、観音菩薩という仏をおまつりした大きなお寺が、古くから開かれています。さらに、高野山や熊野三山（本宮・新宮・那智）という、全国に名前の知られた霊場（宗教の上で大切な場所）もあります。このようお寺や神社へ、むかしも今も全国から多くの人々が訪れています。これも、きのくに－和歌山県の特徴といえることができます。

都にも近く、豊かで、また人々を引きつけるお寺や神社も多くあったことから、きのくに－和歌山県には文化財が多く残されています。文化財の中でも最も価値が高い国宝の数が、和歌山県は全国第6位ですが、このことは他にも和歌山県のさまざまな場所に多くのすぐれた文化財があることを裏づけています。

なお、高野山と熊野三山とそこへ向かう道（高野山町石道や熊野古道など）は、世界的に見ても価値が高いとして、2004年7月にユネスコの世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」として登録されました。

※特別展「きのくにのこなにわ小浪華－湯浅ゆかりの文人の書画－」も開催中

ノート（感想や質問を書いてください。）